



これまでと、これからの青少年育成支援活動を探る



全日本青少年育成アドバイザー連合会
会長 峠 テル子

皆様いかがお過ごしでしょうか。日頃は会の発展にご尽力頂き感謝申し上げます。

昨年末から現在まで、新型コロナウイルス感染のニュースが世界中を席卷しています。私共にとっては初めての経験で新聞等メディアの情報に右往左往している日々です。この現象は令和2年だけではなくこの先終息の見通しが立たないのが現状です。これと直面している私たちは、次世代を担う健全な青少年育成支援のための対策を模索し、新しい時代に相応しい活動を構築し実践することが必要です。

私たちはこの1年、計画してあった行事をWebや紙上会議などで試行錯誤しながらこなしてきましたが、その理解や会員同士のコミュニケーションが難しい状況に置かれております。

今年も各地域でアドバイザー会員は、計画していた子どもたちとのイベント、また市や県の研修会などの会議も同じくその殆どが中止になりました。

子どもたちは学校へも行けず自宅待機の期間もあり、外での友達遊びも塾通いもままならず、自宅でスマートフォン、ゲーム等、生活体験の必要な時期を自宅で籠もっている子ども、そして親も窮屈な日々を過ごしています。

子どもたちの健やかな成長には、伸び伸びとした豊富な生活体験が必要不可欠です。国の健全な将来を担う青少年にとって、今のこの現状は良い環境ではありません。

今の、この環境に翻弄されている私たちですが、青少年育成団体のアドバイザー会も各地で創意工夫を凝らし、活動が動き始めているニュースが聞こえ始めました。聞いてみますと、この現状を憂えこの環境下で出来る事を常に模索し、他団体の活動の動きに注目して参考にしているとの事です。子どもたちにとってはどこの団体かは関係ありません。

私たちのこれからの活動には横の連携が必要不可欠です。今こそお互いに声を掛ける、「地域の子どもは地域で育てよう」「ありがとう一日100回運動」「挨拶運動」「地域のおじさんおばさん活動」等、様々な取り組みがあります。私たち青少年育成アドバイザー会員は出来る場所で出来る事を出来るときに積極的に「・・・をさせて頂く精神」で参画するときがやって参りました。

少子化の時代、一人一人の子どもたちの健全な成長を願い、私たちは、笑顔で大きな声の挨拶で声がけをして、地域の身近な所から子どもたちに寄り添って活動して参りましょう。常に地域の大事な子どもたちのために「何をしてあげられるか」を考え模索し出来ることを実行していきましょう。

このコロナ禍での育成活動は過去の有り方では通用しないことが多く出てきている中で、感染症対策の優良事例や有効な他団体の企画案の紹介を行って、青少年育成イベントの運営に困っている団体をサポートする必要性が高まっていると思われます。さらに、一緒に汗をかきイベントが成功裏に終わった時に、「次回も頑張りましょう」と主催者と共に言えるようにして、成功した創造的なイベントの事例を全国に発信して共に高めて行きましょう。

末筆になりましたが2つの協力をお願いします。一つ目は、「全会員を対象とした活動実態調査」のアンケートへのご協力です。二つ目は、「一般社団法人化への取り組み」についてのご協力です。地域の一人一人の青少年を取り残さず継続的に支援を続けるため、財政的基盤を築く上でも重要なステップとなります。

会員の皆様、楽しみながら青少年育成アドバイザー活動をして行きたいと思います。私たちは多くの研修会で学んでいます。健康に留意して積極的に自信を持って共に前進して参りましょう。

第3回 理事会・専門委員会開催



内閣府主催 中央研修会に参加して学んだこと

特集 子供・若者の意識と求める支援について

(内閣府調査資料引用)

はじめに

内閣府では、子供・若者を取り巻く諸課題に対し、子供・若者がどのように考えているのか、また、政府、地方自治体、民間団体等による子供・若者育成支援施策について、子供・若者がどのように考え、どのような施策を期待しているのかなどを把握し、今後の子供・若者の育成支援に関する施策の参考とするため、令和元(2019)年度に「子供・若者の意識に関する調査」(満13歳から満29歳までの子供・若者を対象としたインターネット調査。図表11)を実施した。

子供・若者の意識に関する調査(令和元年度)の概要

調査目的	子供・若者を取り巻く諸課題に対し、子供・若者がどのように考えているのか、また、政府、地方自治体、民間団体等による子供・若者育成支援施策について、子供・若者がどのように考え、どのような施策を期待しているのかなどを把握し、子供・若者育成支援施策の検討の参考とすることを目的とする。
調査地域	全国
調査対象者	満13歳から満29歳までの子供・若者(10,000サンプル)
調査時期	令和元年11月から12月
調査方法	インターネット調査(調査会社に登録しているモニターに対し、インターネットを利用して調査票を配信し、回答を依頼) ※13~14歳については、保護者に調査協力の可否を確認後、協力可能と回答した子供を対象
調査領域	(1) 人生観・充実度 (2) 子供・若者が抱える困難 3) 他者との関わり方 (4) 支援機関 (5) 学校や職場以外で他者で行う活動 (6) 社会参加 (7) 将来像

1 人生観・充実度及び他者との関わり方について

ア 自己診断

人生観・充実度について、まず、「あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。」という質問に対する回答を見ると、「あてはまる」又は「どちらかといえばあてはまる」と回答した者の割合が最も高いものは「自分の親(保護者)から愛されていると思う」(73.7%)であり、次いで高いものは、順に「人生で起こることは、結局は自分に原因があると思う」(72.1%)、「自分には自分らしさというものがあると思う」(70.5%)、「今の自分を変えたいと思う」(69.5%)という結果となった。

イ 充実感

次に、「今の生活が充実していると思いますか。」という質問に対する回答を見ると、「どちらかといえば充実している」と回答した者(48.7%)が最も多かった。また、「充実している」又は「どちらかといえば充実している」と回答した者の割合は68.9%であり、「充実していない」又は「どちらかといえば充実していない」と回答した者の割合の31.1%より高い結果となった。年齢区分別でみると、「充実している」又は「どちらかといえば充実している」と回答した者の割合は、年代が若いほど高くなっており、13~14歳(83.6%)が最も高い結果となった。

ウ 他者との関わり方

また、「家族・親族」、「学校で出会った友人」、「職場・アルバイト関係の人」、「地域の人」、「インターネット上における人やコミュニティ」との関わり方として、「会話やメール等をよくしている」、「何でも悩みを相談できる人がいる」、「楽しく話せる時がある」、「困ったときは助けてくれる」、「他の人には言えない本音を話せることがある」、「強いつながりを感じている」という6つの項目について、それぞれ質問をした。その回答を見ると、「家族・親族」との関わり方が6つのいずれの項目も「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合が最も高い結果となり、次いで、「学校で出会った友人」との関わり方が高い結果となった。「地域の人」と「インターネット上における人やコミュニティ」を比べると、「困ったときは助けてくれる」の項目のみ「地域の人」が高い結果となり、それ以外の項目は「インターネット上における人やコミュニティ」が高い結果となった。

以上のとおり、子供・若者の充実感については、年代が若いほど充実感も高い結果となったほか、他者との関わり方については、どの項目においても、「家族・親族」が最も関わりが強い結果となり、次いで、「学校で出会った友人」の関わりが強い結果となった。

2 子供・若者が抱える困難について

ア 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験

子供・若者が抱える困難について、まず、「今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験（以下本特集において「困難経験」という。）があったと思いますか」という質問に対する回答を見ると、「どちらかといえばあった」と回答した者（29.1%）が最も多かった。また、「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した者の割合は49.3%であり、「なかった」又は「どちらかといえばなかった」と回答した者の割合は39.7%より高い結果となった。年齢区分別でみると、「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した者の割合は25～29歳（52.3%）が最も高い結果となった。

次に、困難経験について、「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した者に対して、そうした経験をした主な理由について、「自分自身」、「家族・家庭」、「学校」、「仕事・職場」という問題ごとに分けて尋ねた。「自分自身」の問題で全体で最も高いものは「人づきあいが苦手だから」（55.4%）であり、次いで高いものは、順に「何事も否定的に考えてしまったから」（32.4%）、「悩みなどを相談できなかったから」（29.4%）、「精神的な病気だったから」（21.9%）という結果となった。

「家族・家庭」の問題で全体で最も高いものは「特にない」（35.3%）であり、次いで高いものは、順に「家族内の不和や離別があったから」（15.6%）、「親（保護者）への反発があったから」「家庭が貧しかったから」（12.2%）という結果となった。

「学校」の問題で全体で最も高いものは「特にない」（24.8%）であり、次いで高いものは、順に「集団行動が苦手だったから」（23.6%）、「友達との関係が悪かったから」（21.6%）、「いじめられたから」（18.6%）という結果となった。

就業経験がある者について、「仕事・職場」の問題で全体で最も高いものは「特にない」（27.1%）であり、次いで高いものは、順に「職場になじめなかったから」（15.5%）、「上司や同僚との関係が悪かったから」「本当に自分のやりたい仕事ではなかったから」（14.4%）という結果となった。

以上のように、調査対象となった子供・若者のうち約半数が、今までに、困難経験があったと思うと回答しており、その経験の理由については、人付き合いが苦手、何事も否定的に考えてしまった、悩みなどを相談できなかったなど、自分自身の問題の影響が特に強いと思っている者の割合が高い結果となった。

日本善行会表彰 受賞おめでとうございます



鳥取県 山本邦彦氏



今回の受賞に対して、多くの皆様から、お祝いの言葉を頂き、とても嬉しく感謝しています。経済が最優先の現代社会、しかも

目の前の現実しか見ない状況の中で、少子化は進み、次代を担う青少年が夢と希望に満ちて生きるどころか、多くの青少年が「生きづらさ」を抱えている現状です。かつては「子どもは宝」と言って大切に育てられていましたが、今は、「育てることが苦しい」という親がいます。私は、現代社会の有り様は「明らかに間違っている」と思っています。子育ては親の生き甲斐であり、社会の希望ではないでしょうか。もっと子供たちが元気で明るく、伸び伸びと希望に満ちて生きる事のできる社会を目指したいものです。間違いなく子供たちが現代社会を受け継ぎ、次の社会を担っていくのです。・・・子ども達の未来に夢と希望の光を・・・合掌・・・

受賞者一覧 (青少年指導)

岩手県 佐藤 淳子 氏

千葉県 伊東 幹雄 氏

東京都 金子 純男 氏

香川県 富川 清美 氏

愛知県 鳥越 進 氏

「子どもが伸びるチャンスを活かそう」運動の趣意

(この運動を提唱するに至った経過)

私達はかねてから、健全な青少年を育成しようと「伸びよう伸ばそう青少年」をスローガンに、子どもの成長に家庭が重要な役割を担っていることから「家庭の日」を設定してその啓発に取り組んできました。また、地域の子どもは地域で育てようと、大人が自ら姿勢を正すための「大人が変われば子どもも変わる運動」や子ども達に関心を強く持って、挨拶・声掛けを中心にした「地域のおじさん・おばさん運動」を推進してきました。しかし、長年これらの運動を続けるうちに新鮮さを欠き、マンネリ化してきたために、県民運動発足50周年を迎えるにあたり、運動の経過を振り返り、反省をしながら見直しを行い、これらの運動を土台にした、新しい運動を展開する必要があるとの考えに至りました。

その結果、従来は、大人が中心であったため、子どもが本来持っている「自ら伸びようとする力」を信頼し、それを引き出すサポートを大人(親や保護者ほか)がする、という子供を中心に据えた発想が大切である、との視点に欠けていることに気が付きました。

そのため、「家庭の日」や「地域での活動」を土台にしながら、子どもの成長発達に応じて、子どもが本来持っている「伸びようとする力」を引き出すため、「チャンスを活かす」運動を、新しく県民運動として提唱・推進することが望ましいと考えました。



子どもが伸びるチャンスを
活かそう

認定新規青少年育成アドバイザーの紹介

岐阜県 廣瀬 和 氏

可児市青少年育成市民会議事務担当の経験をもとに、可児市青少年育成推進員先輩諸氏の数十年にわたるこれまでの実績を引き継ぐべく、努力したい。

本市の特色である地域行事に地域の小学生、中学生、高校生等の青少年の積極的な参加を推進し、地域の大人と青少年が一体となって地域の活性化に取組み活動を支援していく。



岐阜県 井戸 健司 氏

現在。従事している生活困窮者、ひきこもり自立支援の現状を踏まえ、不登校または家庭・家族の事情等で学校にいけないなどの青少年または保護者に対して、将来の困窮者、ひきこもりになりうる可能性、非行に走る可能性など考慮し、関係機関、地域とのネットワークを構築し、防止または自立への支援ができることを目的とし活動していきたいと思ひます。



茨城県 丹能 裕一 氏

保育士として、青少年期へとつながる乳幼児期・児童期の健全育成を目指します。具体的には、今回の研修会で得たカウンセリング技術や青少年期の問題行動等の情報を活かし、保育士としてのスキルアップをはかることで青少年育成活動へとつなげたいと思ひます。



栃木県 柳場 美枝子 氏

未来の子どもたち、ESD、家庭、地域、学校、職場などの多様な主体性と道徳的指針と目的を持って、心豊かな子ども、自尊感情と夢と希望を持たせる手伝いをしたいです。

持続可能な「誰ひとり取り残さない」奉仕と心で接して行きたいです。



東京都 多田 研治 氏

- ①青少年が日常生活の中で安心して過ごせる自由に活発な活動ができる居場所とその環境整備への貢献。
- ②子ども青少年食堂運営活動への貢献



アド会員の活動

「夢をはこぶ青少年育成活動」

埼玉県青少年育成アドバイザー協議会所属

富士見市青少年育成市民協議会 会長 高野路子

富士見市は、埼玉県の南西部に位置し、人口は11万人で昭和30年代に東京のベッドタウンとして発展し現在に至ります。駅の周辺は都会的な街と田園風景の広がる顔の見える関係のある地域とが混在しております。

市民協議会は青少年の健全育成に関わる16の加盟団体で組織され、会員330余名がコロナ禍で生活様式を考え、オンラインの開催など創意工夫して進めております。

今までの活動内容は

小学生を対象 「親子で参加できるサマーキャンプ、グランドゴルフ大会、子ども映画会、餅つき大会などの支部活動、子ども大学」など。

中学生対象 「中学生の主張大会、ボランティア」など。

高校生、大学生、社会人（29歳まで）対象

「青春のつどい、青年リーダー研修」など

内閣府統括官青少年担当を退職されました櫻川博三氏にご指導とご協力をいただきましたことに深く感謝しております。また、三つの大学から4日間学生ボランティアを30人ずつ迎えて、夏休み宿題教室を開きました。13カ所の公民館、集会所に子どもたち1400人が集まって勉強をしました。18年間続いた勉強会ですが今年は中止しました。

また、黄色の三角旗の点検やパトロールなど定期的に行い、「会員研修、会員だよりの発行」市民の皆様を紹介をして広めております。そして、障害のある方も一緒に参加をして、成長と共にいつか、どこかで関わっていることとなります。このような活動ができますのは、市の補助金と賛助会費（1口500円で4200人の会員）寄付金のお陰です。

今後も、三密を避け、親の学習講座、若者支援に取組み、皆様方のご理解とご協力を頂きながら、次代を担う青少年の健全育成のため「夢をはこぶ青少年育成活動」を推進して参りますのでよろしくお願い申し上げます。



子供達とのエコ活動

兵庫県青少年育成アドバイザー協議会
会員 黒谷静佳

仕事ありきで、細やかな子育てが出来ていなかったもので、仕事を辞めたとき子供たちはどんな様子か知りたかったので、自宅で学習教室を開きました。

に登録して、その子供たちと、クリーン作戦などして、落ち葉などで堆肥を作り、子供たちの大好きなイチゴ栽培をしました。その様子を壁新聞に書き、兵庫県代表の全国大会に参加したのがきっかけで、子供達との信頼関係を築き、楽しい行動に起こせる活動が今でも、続いています。

全国大会は、1998年その次の年でした。阪神淡路大震災の後の子供たちの行動が今でも印象に残っています。（物が失われた震災、お弁当の釜めしの入れ物を重いのに関わらず大事に持ち帰りました。）

神戸市立の児童館でも、年間を通じた親子での事業としてこどもエコクラブを3年間続けました。

子供達の様子は、変わりました。子供達への少しの声かけで、信頼関係が築けた！との確証が、最近ではあまりないような気がします。依頼があって児童館などに行くのですが、先生方とのオープンな会話も、少なくなったような気がしています。子供達との活動時間外のやり取りができにくくなってきました。

子供たちの変化は、周りの大人が作っているのかもしれないね。コロナ期に入り、余計に感じます。

子供達と少しでも心を通わしたいと、「子供の遊びにかかわる大人の研修」児童館関係の先生方の研修に参加しています。子供達との活動で、アイスブレイクなどに使えるアイテムが沢山ありますが、先生方の子供たちに対する思いも知ることになっています。

朝日こども新聞もラインで見ることが出来ます。参考になります。

私は、エコを通じて子供たちの楽しい元気な声を一人でも多くの子供たちに挙げてほしいとの思いで、活動を続けたいと思っています。

(2009年度 2012年度推薦があり、環境大臣賞を2度いただきました。感謝！)

※ ブログ：クロちゃんのエコ日記 よろしくお願ひ致します。



広島県青少年育成アドバイザー協議会

日時：10月4日（日） 10：00～12：30
場所：広島市中区地域福祉センター
令和2年度 第2回研修交流会を開催



(1) 今回は、現在全日本アド連で検討中の一般社団法人化について研修しました。

一般社団法人化することにより、自分にとってどのような変化があるのか？

このことについて考えてみました。みなさんそれぞれに意見を発表されました。

(2) コロナ感染が拡大している中でしたが、十分な対策をして開催しました。

(3) 杉原さんのバルーンづくり、岡田さんの小物づくりは、楽しい時間でした。

近畿ブロック研修会開催

日時：10月25日

場所：京都府宇治市内にて



- ① 参加アドの活動内容の紹介
- ② 次年度役員の改選
- ③ 令和3年度兵庫県開催

滋賀県からの参加者なく残念であったが、有意義な研修会であった。

兵庫県青少年育成アドバイザー協議会 第25回メッセージ大会開催

日時：11月22日

場所：県民会館交流プラザ



阪神淡路大震災後
の平成8年度から
スタートした大会です。

本年はコロナ禍の影響で、一般参加者はなく、会員がメッセージを発信しました。個々の活動を知り有意義なひと時を過ごしました。また、新たな収穫も得ることもできました。

【編集後記】

コロナ禍の影響で都道府県アド会の活動や事業が自粛ムードとなり、原稿が少なく編集に苦労しています。皆様が活動されている事例がありましたら事務局まで投稿をお願い致します。

アンケート調査については、現在、アド連理事会の承認を得て、青少年育成アドバイザーの認定を受けた方を対象にしたアンケート調査の準備を行っています。会員全ての方に調査用紙をお届けいたしますのでアンケート用紙がお手元に届きましたらご理解ご協力をお願い致します。

宮後弘満拝